

平成30年度 神崎市立千代田中学校 学校評価計画

1 学校教育目標 「チャンス・チャレンジ・チェンジ」 ～本気の心を育てよう～	2 本年度の重点目標 1 確かな学力の育成 ～主体的に学習に取り組み態度の育成～ 2 豊かな心の育成 ～人として心豊かに生きる態度の育成～ 3 健やかな体の育成 ～健康安全の確保に取り組む態度の育成～ 4 自主・自立・自律の推進 ～活力のある生徒(会)活動の醸成～ 5 家庭・地域等との連携 ～信頼と期待される学校の創造～
---	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を **●** ● **○** する

3 目標・評価

①「確かな学力の育成」 主体的に学習に取り組む態度の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・基礎・基本の定着と活用力の向上をめざした実践	・学習状況調査等結果で、全教科全国・県平均を上回る。 ・活用力の育成をめざし、校内研究の推進を図る。 ・家庭学習の充実を図る。	・学習状況調査等の分析と課題の明確化と改善に向けての取り組みを行う。 ・学習の規律を徹底させながら、授業の中で活用場を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・自学ノートの効果的な活用を示すとともに「テストweeks」を実践させ、家庭学習が充実できるようにする。 ・漢検・教検・英検等、各種検定への200名以上の挑戦をめざす。 ・図書館の本を年間50冊以上借りることを目標とし、読書活動やNIEの活動を推奨する。 ・各教科でデジタル教科書やタブレットの効果的な活用法を検討し、積極的に活用する。

②「豊かな心の育成」 人として心豊かに生きる態度の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・道徳教育、人権・同和教育の充実 ・人権・同和教育の推進	・道徳の授業と教育活動全体を通して心を育む教育と規範意識の向上を図る。 ・人権・同和教育の推進を図る。	・学校行事を核にして体験を生かした道徳の授業や「神崎市4か条の誓い」を具現化した授業を行う。 ・道徳教育実践校の研究会に参加し、各学年において実践をひろめる。 ・「ふれあい道徳」などを通して、生徒・保護者に規範意識・人としての在り方を高める道徳の授業や人権集会、人権講話を実施する。
	●心の教育	・すみそよいあじの実践	・すみそよいあじの実践	・生徒会活動と連携し、千代田9か年の生活基盤であるすみそよいあじを実践させる。 ・「無言清掃」を徹底し、気づく心・がまんする心等を育てる。
	●いじめの問題への対応	・いじめのない学校づくりを目指した実践	・いじめの発生0を目指し、いじめに関する早期発見・早期対応に努める。 ・自己肯定感を高め、認め合う集団を育成する。	・いじめアンケート調査や月ごとの生活アンケート調査を行い、実態の把握に努め、早期対応をする。 ・支持的風土の醸成を図り、出番、役割、承認を意識した学級活動・生徒会活動・行事の活性化を図る。

③ 健やかな体の育成 健康安全の確保に取り組む態度の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・健康教育の推進	・関係機関と連携しながら健康な心と体づくりを目指す。 ・講演や部活動を通して、自分の体づくりに関心のある生徒の育成をめざす。	・「おにぎりの日」「弁当の日」を設け、食事づくりの技能と感謝の心を育てる。 ・「朝ごはん」の必要性を知らせ、喫食率を昨年度より高める。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進するために関係機関と連携し、生活改善を行う。スマホ等を9時になったら保護者に預ける生徒を昨年より増やす。 ・部活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方を保護者に知らせ、実践をする。

④ 自主・自立・自律の推進 活力のある生徒(会)活動の醸成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○活力のある人づくり	・ボランティア活動の推進 ・部活動・生徒会活動の充実	・「すみそよいあじ」を合言葉に主体的な活動をめざす。	・自主性・自律性を育み、ボランティア活動を実践させる。 ・生徒会活動、係活動において、出番をつくり、自分の役割を自覚し、主体的に活動させ、承認する機会を設定する。 ・部活動の顧問会議、キャプテン会議の実施を行い、生徒の主体的な活動を行わせる。

⑤ 家庭・地域等との連携 信頼と期待される学校の創造

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標及び重点項目の周知	・生徒、保護者への周知を図り、保護者の周知率90%を目指す。	・全校朝会での校長講話を通して、生徒への周知を図る。 ・学校教育目標を受けて、各教師が自己の目標を設定し、日常の教育活動を実践する。 ・保護者には、PTA総会や学級・学年PTA、学校便りを通して啓発に努めていく。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・職員研修の活性化を行う。 ・定時退勤日の実践をする ・部活動の時間の見直しを行う。	・職員研修の時間を明確にし、事前打ち合わせは資料を準備することで、限られた時間で有意義な研修にする。 ・定時退勤日の部活動の時間を見直し、部活動終了後30分に施錠を行う。 ・部活動の時間の見直しを行い、保護者に啓発を図る。
	○信頼される学校づくり	・学校公開や授業参観の場の設定 ・地域との連携	・授業参観日の保護者数を昨年以上に増やす。 ・学校だよりやホームページで学校の情報を知らせる。	・学校参観や土曜参観を含め、地域住民が参加しやすい学校行事を実施する。 ・学校支援連絡協議会、学校保健安全委員、児童民生委員、人権擁護委員、校区内小学校との連携を図る。
	○教職員の資質向上	・教職員の資質向上および服務規律意識の向上	・一人一役を生かした教育活動を充実させる。 ・教職員が広い視野を持ち、社会人としての自覚を持つ。	・若手教員を育てる意識を持ちながら、「初任者研修」「中堅教諭等資質向上研修」を活用し、互いに高めあう ・TT少人数授業、授業研究の実践を行い、研鑽することで互いの良さを生かして、授業づくりに生かす。 ・服務等に関する研修や事例研究の機会を設け、服務規律保持の自覚が高
	○生徒指導	・生徒指導の充実	・問題行動の発生0を目指し、「報告、連絡、相談」の確実な実施と開発的生徒指導を行う。 ・不登校生徒の減少をめざす。	・最低月1回の生活アンケートの実施と早期対応を行う。 ・連絡、報告、相談の迅速対応の生徒指導を行う。 ・不登校生徒の減少を目指し、SSW、SC、支援員、関係機関等との連携を深める体制を築く。
	○地域の特色を生かした教育	・地域学習教材や地域人材の活用	・総合的な学習の時間での体験活動を実施する。	・「次郎物語」の読書週間を設定するとともに、「次郎物語」を使った道徳の授業を行う。 ・1年生の総合的な学習で、「地域訪問」や「神崎の偉人35」等を活用し、郷土学習の充実を行う。
○安全管理	・保健安全教育の推進と安全体制の確立	・安全教室や避難訓練の実体験を通じ、交通事故、生活事故の発生0を目指す。 ・施設、設備の管理の徹底を図る。	・登下校時における交通安全指導を定期的実施する。 ・月末の安全点検を実施し、対応を行い安全な環境作りを行う。	

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目